

歴史学と

資本主義

社会科学教育講座・教授

竹田 有

■組合史から社会史へ

私の研究分野はアメリカ労働史ですが、労働組合とか団体交渉という言葉は最近ではダサイし、クライ印象を与えています。しかしながら、この二十年ばかりの間に労働史研究も随分様変わりしました。

働く者をもつ信条、慣習、文化が分析の対象となり、人種、エスニシティ、ジェンダーの面からアプローチがなされるようになりました。

私の場合、労働者の住宅やコミュニティへの関心から、階級、人種、エスニシティによる居住空間の分離という都市史の領域に入っていきました。狭い組合史から社会史へと興味は拡大したわけです。

■資本主義は人を幸せにするのか

とは言っても職場での権力関係、労使関係は常に私の関心の中心にあり、最近の情容赦の無い雇用リストは、「民主主義は工場の門前で立ちすくむ」状況を物語っています。

また、そもそも資本主義は奴隷制



西洋史の受講者と共に

■これからの歴史学

ともファシズムとも開発独裁とも手を結べるのですから、飽くなき利潤追求という資本主義の原理に対抗的な労働運動、社会福祉活動、フェミニズム、環境保護運動などの頑張り、ようやく「人間の顔をした」資本主義となったと言えるでしょう。

西ヨーロッパを中核として十六世紀に成立した資本主義は、十九世紀末に地球大に拡大し、今や旧ソ連に続いて中国へと浸透しつつあります。

この資本主義の分析と理解こそ、これからの歴史学が正面から取り組むべき、最も切実な課題に違いありません。

ゼミでの

ひとつこま

学校教育講座・教授

瓜生 淑子

■JRが保育園経営!?

「JR西日本が三月から東海道線六甲道駅構内に保育園開設」という新聞記事(朝日、二〇〇二年十一月二十一日付)の読み合わせをしながら、この日のゼミは始まりました。

学生一「これって、まるでコインロッカーじゃないですか。」

瓜生「一時保育もOKということだから、まさにそうだね。」

学生二「保育時間も夜十時ごろまでらしいですね。」

瓜生「早朝、一時駅で預かった後、保育園まで送迎バスで『宅配』サービスもあるそうよ。」

学生三「園庭はあるのでしょうかね。親にとつて便利になることだけではないのでしょうか。」

瓜生「企業的センスでサービス合戦になりかねないね。」

■子ども本位の保育を

学生四「保育園のバイト先で見ると、登降園のときに、お母さんたちって結構、保育者と子どもの話やら何やらするじゃないですか。それやこれやあるから、安心して子どもをあずけられるんだと思いますね。」

瓜生「九〇年代に入って政府も少子化対策に力をいれたんだけど、『規制緩和』が政策の前提にあるから、子どもたちの発達や成長にとつて何が譲れない保育の条件なのか、という点を抜きにした性急さが心配だね。」

……などなどゼミの議論は尽きません。



先輩から譲り受けた卒論実験道具

普遍数理を 追いかける

理科教育講座・助教授
松山 豊樹

■謎の研究室

近年、附属小学校の生徒たちが突然研究室に乱入して来るようになった。ミッキーマウスのドアホンが気に入ったのか、ピンポンと鳴らして、なだれ込み質問攻めにする。

研究室内には、まず黒板。英数字、ギリシャ文字、奇妙な記号が所狭しと並んでいる。机の上の山積みされた専門書。パソコン画面には二つの銀河の衝突シーン。さらに奥に踏み込むと、大歓声上がる。巨大な水槽にへびの



へびの様な頭を持つ魚、雷魚(カムルチー)

様な頭を持った生き物が泳いでいる。子どもたちの瞳は輝く。

■自然の摂理は「数理」

私の専門は理論物理学。究極物質を追求する素粒子論、宇宙の創世・進化を探索する量子宇宙論の研究である。時間、空間、物質を突き詰めて行くと、動かし難い確信が芽生える。「自然は、まったくもって数学的である」と。

しかも、その数理は素粒子や初期宇宙という極限的存在にのみならず、身近の自然に組み込まれている。もし宇宙の設計者(神)が存在するとしたら、神は数学者である。極めて優れたいくつかの数理構造を用いて宇宙をプログラミングしたに違いない。存在を超えた普遍数理。それが私の研究テーマなのである。

■量子力学から漁師?力学

超ミクロの例えば電子の振る舞いを説明する量子力学が、生態系の個体数推定の手法に援用できると聞いたらどう思うか。魚類生態系を相手にしたならば「漁師」力学である。鹿や熊だったなら「猟師」力学となる。

命名はジョークであるが、中身は大真面目。普遍数理への確信が生んだ創作のごく一例である。

このレターに不思議を感じたら、ピンポンしてみてください!

歌はその人の 命の輝きです

音楽教育講座・教授
福田 清美

■一番身近な音楽手法

歌は一番身近で手軽な音楽手法と思われれます。オギャーと発してから、おおかたの人にとって、自分の存在や意志や思想を伝える方法が言葉である以上、歌はその人の命の輝きとともに、声と言葉とメロディーで、詩情や感情をさらに大きな感動を伝えられるのです。

■声楽は肉体と精神と知力の習練

手軽と言いましたが、高度な内容と表現を要求される声楽分野については、肉体的、精神的、知的な習練が不可欠です。

さらに声楽は肉体的な成熟加減もあり、大学卒業頃からやっとその演奏方法に目覚め始めますが、多くは社会に出て個人的に勉強を続けることは制約や困難が多いのです。



松本光康氏撮影

奈良教育大学音楽科声楽研究室主催「大学と市民の共同制作オペラ 全幕シリーズII W.A.モーツァルト「魔笛」」
2002年3月21日 奈良教育大学講堂にて

■フランス近代歌曲に魅了

卒業生、修了生たちのそれ以後の勉強への情熱にこたえて、歌手とピアニストのための研究の場である「フランス声楽アカデミー」を八年前に発会しました。

十九世紀後半から成立を見たフランス近代歌曲を中心に、勉強会を月に一度、そして年に一回、発表コンサートを重ねてきましたが、詩人と作曲家の魂の融合とも言えるべきフランス歌曲の作曲手法に、歌手のみならずピアニストまでがのめり込む魅力が有し、今や多くが虜になっています。

また現役の学生には四年前から課外活動として、オペラ制作・上演を体験させ(平成十四年度は平成十五年三月二十三日講堂にて、プッチーニの難曲「ジャンニ・スキッキ」、音楽的向上と発展のため、気軽にいつまでも学ぶことのできる環境を提供し続けたいと思っています。